

森の会

MORINOKAI NEWS vol.14

ニュース14

2016年8月1日発行 編集・発行／森の仲間たち

I・N・D・E・X

- 先生からのメッセージ…………… 2～3
- 松田之利先生を偲ぶ…………… 4～5
- 会員だより・進路状況…………… 6
- 現役学生から・会計報告…………… 7
- 地域科学部公開講座案内・役員紹介…………… 8

岐阜大学地域科学部 創立20周年記念式典・祝賀会 平成28年度 森の会 総会のご案内

平成28年10月1日に地域科学部は創立20周年を迎えます。これを記念し、下記のとおり式典・祝賀会が森の会の総会・懇親会も兼ねて行われますので、ご案内いたします。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

日 時 平成28年 **10月1日(土)**

森の会総会：14:30～ 地域科学部第1会議室

記念式典：15:00～ 岐阜大学講堂（歴代学部長による記念シンポジウム）

記念祝賀会（森の会懇親会）：17:00～ 岐阜大学生協第2食堂



お楽しみ 桂鷹治さんによる落語

プロフィール

2012年3月岐阜大学地域科学部卒業とともに、2代桂平治（現 11代文治）に入門、前座名「たか治」。同年6月3日初高座、浅草演芸ホールにて「子ほめ」。2016年6月より二ツ目昇進 「鷹治」となる。

紋：結び柏 出囃子：都囃子 趣味：音楽鑑賞、食べ歩き、芝居見物

●祝賀会（懇親会）会費 3,000円（在学生会は1,000円）当日受付にてお支払い下さい。

※在学生会の会費の一部は森の会が負担いたします。

————— 当日はできる限り公共の交通機関でお越し下さい。 —————

同封のはがき、またはメールにて出欠をお知らせください。

ご出席・ご欠席に関わらず、同封のはがき（切手不要）に氏名等必要事項をご記入の上、ご返信下さい。なお、Eメールにてご連絡いただいても結構です。総会のみ、式典のみ、祝賀会のみ参加も可能です。また、今回残念ながらご欠席の方も、是非とも皆様への近況報告をお寄せ下さい。

昨年も盛況のうちに開催されました!



第10回 森の会総会・懇親会 (2015.10.3)

申込み締切 9月12日(月)

託児希望の方は8月30日(火)



※締切が過ぎてからでもご出席いただけることになったり、託児のご希望がある場合には、森の会事務局までお気軽にご連絡下さい。
E-mail: mori2001@gifu-u.ac.jp

先生からのメッセージ

ご挨拶と国際教養コース開設のご報告

本年度より地域科学部長に就任しました和佐田裕昭です。よろしくお申し上げます。私は学部創設以来、地域科学部の自然科学系分野の教育と研究に携わって参りました。地域科学部の発展のために努力して行きたいと思っておりますので、今後とも種々ご指導、ご援助を賜りますようお願い申し上げます。

本年4月、地域科学部には新しいコース - 国際教養コース - が開設されました。国際教養コースの開設により、地域科学部の履修コースは、産業・まちづくりコース、自治生活コース、環境政策コース、生活・社会コース、人間・文化コースとあわせて6コースとなりました。そこで、少々紙面を頂きまして国際教養コースに関してご説明申し上げたいと思っております。

国際教養コースは、現代のグローバル化した社会で求められる「リベラル・アーツ的学識」、「自文化と異文化に関する理解」、「社会の課題を把握してその解決を展望する学識」の習得を目指しています。これにより、グローバルな視点から、暮らしやすく平和で人間的・文化的な社会を展望できる人を育てたいと考えております。

このために、人文・社会および自然科学の様々な分野の学習を通して、幅広い教養的学識を身につけるとともに、日本人学生は海外留学を通して異文化に対する理解を、外国人留学生は日本語および日本文化に対する理解を深めることができるように

表1 国際教養コースのカリキュラム表

※赤字は必修科目。青字は選択必修科目。緑字は外国人留学生必修科目(留学生センター開講科目)。下線は外国語をかなり用いた授業。それ以外のコース別必修科目と選択科目は、外国語を何らかの形で用いた授業(一部を除く)。

学部開講科目					
専門基礎	専門基礎選択	基礎セミナー	コース別選択必修&選択	専門セミナー	
前期	前期	前期	前期	前期	
地域研究入門	哲学		国語と社会入門	微積分I	
社会活動演習	新入生オリエンテーション		線形代数I		
後期	後期	後期	後期	後期	
応用外国語I	物理学I	(新言語と社会A)	近・現代思想論	社会調査法I	
応用外国語II			(新)アフリカ文化論	文化人類学	
(新)応用外国語A			現代日本の社会・日本の表象文化	近代化日本人・生物学I	
前期	前期	前期	前	前期	
応用外国語III	憲法	(新言語と社会B)	日本文化論	言語意味論	
応用外国語IV			化学実験	社会政策論	
(新)応用外国語B			岐阜の地域文化	化学演習	
			物理学II	生物学II	
			日本経済論	記述統計学	
			社会哲学	言語理解論	
			社会調査法II(境界文化論)		
			(比較経済体制論)	民法	
			(国際経済論)	文化受容論	
			社会言語学		
2年後期~3年前期: 海外留学(留学中の単位は必修科目については一括認定)*					
後期	後期	後期	後期	後期	専門セミナー
			国際関係論	地域産業論	
			地域計画論	環境調査法	
			推測統計学	アジア文化論	
			居住環境と心理	言語文化論	
			ヨーロッパ文化論(ジェンダー論)		
			メディア論(コミュニティ論)		
4年生後期卒業研究					

学部長 ● 和佐田 裕昭 教授

配慮しました。国際教養コースのカリキュラム表を示しましたので、科目配置など詳細をご覧頂ければと思います。

国際教養コースのカリキュラム特徴として、

- (1) 2年前学期までに多彩な授業科目を履修して幅広い学問的教養を習得。
- (2) 日本人学生は、原則として2年後学期からの1年間、海外の学術交流協定大学に留学。留学先で取得した単位の全部または一部が卒業単位として認定され、標準修業年限での卒業も可能。
- (3) 外国人留学生は、1年後学期からの1年間、留学生センター開講の日本文化関係科目を履修。3年前学期の地域学実習では、インターンシップなどの社会活動への参加を通じて日本社会の現状を体験。
- (4) 講義科目、演習科目および実習科目は「多文化理解・共生」型として展開。

表2 国際教養コースを選択する日本人学生の4年間

時期	内容	備考	
1年前学期	4月	学部共通の必要な科目に加え、国際教養コース選択に必要な科目を履修 語学力を磨く 語学能力試験 (TOEFL など) 受験 留学先の情報収集	国際教養コースを選択する人および選択する可能性のある人は、履修モデルを参考に必要な科目を履修して下さい。後にも他コースを選択することになっても、取得した単位は卒業に必要な単位の一部として認定されます。 交換留学に当たっては、必要な語学能力が定められています。希望する大学に行けるよう自主的に学習しましょう。 語学能力試験を受けることにより、学習のモチベーションをあげることができます。試験に慣れることもできます。留学許可取得までに複数回受けをお勧めします。
	8月~9月 9月下旬	交換留学生 (大学協定校) の募集 交換留学生 (大学協定校) の学部選考	奨学金制度あり。 大学との協定校、学部との協定校のいずれを希望する場合も留学希望先の順位を付けて申し込みます。学部内で選考し、全学へ推薦します。
1年後学期	9月~12月 10月	交換留学生(大学協定校)の全学選考 学部共通の必要な科目に加え、国際教養コース選択に必要な科目を履修 全学選考の可否通知	所属学部 → 交換留学希望者へ通知
	1月頃 1月~2月	交換留学生 (学部協定校) の選考・決定	
2年前学期	4月	学部共通の必要な科目に加え、国際教養コース選択に必要な科目を履修 留学先大学からの受け入れ通知及び入学手続き 渡航手続き	各自でパスポート、ビザ(査証)、航空券、予防接種など必要な手続きを行って下さい。 ※ 手続き内容や進捗は国により大幅に異なるので注意!
	5月~7月		
	6月~7月 8月	所属する専門セミナーの決定 渡航	
後2年前学期	9月	留学生生活スタート	学期スタートの2~3日前には現地に到着し、気持ちや入学の準備を整えておきましょう。 留学先に到着したら、現地の大使館等へ在留届けを提出し、大学あるいは学部へ現地連絡先の報告してください。また、毎月、大学あるいは学部へ留学報告書を提出してください。
	後2年後学期		
前3年前学期	6月~7月 7月~8月	留学生生活終了 帰国	留学先で取得した単位の報告及び認定の申請をしてください。
	10月	学部共通の必要な科目に加え、国際教養コース選択に必要な科目を履修	4年生になると就職活動も合わせて行うため、学業にのみ専念することが難しくなる可能性があります。この学期の間に、卒業に必要な単位をできるだけ取得するよう心がけて下さい。 就職活動開始時期は流動的です。各自での情報収集も心がけてください。
3年後学期	3月	就職活動開始 (2017年度就活の場合)	
	4月	学部共通の必要な科目に加え、国際教養コース選択に必要な科目を履修 卒業論文の準備 就職活動	
4年前学期	10月	学部共通して必要な科目に加え、国際教養コース選択に必要な科目を履修	
	1月 2月 3月	卒業論文執筆 卒業論文提出 卒業論文発表会 卒業	

などをあげることができます。なお、2年後学期からは学生各自の学問的興味にしたがって専門セミナーに所属することは、地域科学部の他のコースと同じです。

海外留学先には、岐阜大学の学術交流協定大学に加えて、地域科学部独自の学部間協定大学があります。留学先が、岐阜大学(もしくは地域科学部)と授業料免除協定を結んでいる場合は、留学先での授業料は免除されます。

「国際教養コースを選択する日本人学生の4年間」には、海外留学を含む、4年間のモデルの流れを示しました。また、「地域科学部との学部間協定大学の交換留学要件」には、それぞれの

仲間との「つながり」を大切に

地域文化講座 ● 洞澤 伸 教授 (副学部長)

学部創立20周年、おめでとうございます。10月1日(土)には記念式典と祝賀会が予定されています。ご案内は、「森の会ニュース」とご一緒にお手元に届いていると思います。この4月から、私は不思議な星の巡り合わせにより、副学部長と同窓会連合会の幹事を務めています。当日、多くの皆様にお会いして、お話しできることを楽しみにしています。

さて、私は在勤28年となります。この十数年来、若者たちの言語コミュニケーションを研究してきました。具体的には若者言葉の意味、その機能と使用心理、携帯電話によるコミュニケーションの特徴などです。これまでの研究で一つ明らかになったことがあります。それは、時代によりいくら若者言葉の表現が移り変わっても、また、新しい情報通信メディアが登場したり、新しいコミュニケーション・サービスが始まったとしても、若者たちにとって大事なものは親しい仲間との「つながり」であるということです。親しい友人や恋人と若者言葉を使って楽しくお喋りする、LINEのトークでたわいないメッセージとスタンプのやりとりをする、そのような行為はお互いが「つながっていること」



多くの学生に支えられての20年間

地域科学部の使命は、地域のかかえる諸問題に対して多面的に取り組み、そして解決できる人材を世に送り出すことだと考えられます。創設以来20年間、この理念のもと多くの教員が1500人を超える学生を指導教育し、地元を中心として企業、自治体に輩出してきました。

私の研究室は、環境講座に所属し雑木林、都市緑地、さらには湿原の植物や植生を対象として、自然環境保全に関連する様々なテーマに取り組んでいます。自然環境保全の学問的基盤である生態学は理系分野ということになりますが、自然環境保全の実際の場面になると生態学だけでは対応できません。自然環境保全は、もちろん野生動物植物の保全なのですが、その根底には人の生活環境を守るという視点があるからです。自然環境を保全しようとする必ず人の営為とがぶつかります。地域の自然環境保全の問題解決には、人社会の法律、経済、福祉、教育、文化が複雑に関わってきます。実際にはそこまで広い視野をもっ

大学への留学要件を示しました。参考にして頂ければ幸いです。

表3 地域科学部との学部協定大学の交換留学要件

国名	大学名	派遣可能人数	学期	必要語学能力	宿舎	講義言語
アメリカ	アーカンソー大学 フォートスミス校	2	秋期: 8月~12月 春期: 1月~5月	TOEFL iBT 71(62)	あり	英語
フランス	リール第三大学	2	秋期: 9月~1月 春期: 2月~6月	特になし	あり	仏語/英語/日本語

コースの定員に関して質問を受けることがありますが、地域科学部のコースの定員はありません。学生のコースの選択は入学後になされるため、すべてのコースの学生数は毎年変化します。

国際教養コースについて、ご意見、ご質問などございましたら、お寄せ頂きますようお願い申し上げます。

ほらさわ しん 洞澤 伸 教授 (副学部長)

の確認作業であると考えられるのです。特に携帯電話の登場によって、親しい仲間との間には「いつでも、どこでもつながる状況」が作り出されました。そうであるが故に、若者たちはお互いが「つながっていること」を常に確認していないと、反対に不安や孤独を覚えるのです。これはとても興味深い逆説的な現象です。そのため、若者たちはLINEによって「つながり」の確認作業を頻繁に行うこととなります。そこで若者たちが求めているものは、親しい仲間から自分の存在を認めてもらうこと(自己承認感の獲得)、そして、お互いの気持ちの共有(イマココの気持ちの交換)であると考えられます。また、その一方で親しい仲間を見つけないことができない若者もいます。その点は、少し気がかりな所です。

同窓生のみなさんは、ぜひこれからも折に触れて思い出深い親しい仲間との、そして、出会いの場また学び舎でもあった地域科学部との「つながり」を温めて頂ければ幸いです。

ひご むつき 洞澤 伸 教授

て研究するわけではないのですが、研究を進める過程で何らかの人社会の影を感じる機会は多々あります。

当研究室の学生は、シデコブシ、ヘビノボラス、モウセンゴケなど普通の人間なら聞いたこともない植物を対象とし、普通の人間なら足を踏み入れることもないような場所で調査研究をします。誰も知らない場所の、誰も知らない植物の生きざまを調べた経験が、社会に出て役に立つことはないでしょう。こんな役にも立たないことを指導教育されたのに、不思議なもので彼らは社会に出て企業や自治体できちんと役割を果たしています。教員が指導できていなくても、社会に出るため、そして出た後で己の身を助ける方法論を自律的に習得していたとしか考えられません。しかし、彼らのおかげで私は大学教員としての責務を果たしていると一定の評価を頂いているわけです。この20年間(正確には16年間だろうか)、私はつくづく多くの学生に助けられてきたのだと彼らに感謝せずにはいられません。

松田之利先生を偲ぶ

平成28年1月28日

初代学部長 松田之利先生がご逝去されました。
謹んでお悔やみ申し上げます。



第9代学長 金城俊夫名誉教授と



ニュージーランドにて



北アルプス表銀座にて奥様と



雪上金婚式にてプロスキーヤー三浦雄一郎氏と

松田之利先生への手紙

地域文化講座 ● 林 まさこ 教授（副学長）

松田之利先生、今、この時、先生は、どこにいらっしゃるのでしょうか。先生のこやかな笑顔が目に見え、明るいお声が耳に響きます。

今年2016年1月28日(木)12時16分、大学の斉配信メールにて先生の突然のご訃報に接し、とても信じることができず、ご逝去の報を受け入れたくない思いが募るとともに、先生のご健康状態を存じ上げなかった自分の迂闊さを悔やみ気持ち一杯となりました。当日のお通夜には駆けつけることができましたものの、翌日のご葬儀は、定期試験直前の講義日であり卒業論文受理日であったため向うことがかなわず、ご葬儀がおこなわれていた時刻、3限の「文化基礎論」の授業で、松田先生ご逝去の知らせを受講生の皆さんにお伝えし、ともに黙祷させていただいた次第です。

振り返れば29年前、私が教養部に就職させていただいた当時の先生方お一人おひとりのお顔が、目に見えます。それぞれ人間的な魅力に溢れる先生方のなかで、「中堅」の世代でいらっしゃった松田先生もまた、大勢の教職員・学生に慕われる人間味溢れる方でした。どんな困難な状況も「アハハ」と豪快な笑いで吹き飛ばしていらっしゃった松田先生はまた、繊細なお心配りで一人ひとりの悩み事に耳を傾けてくださる方でした。思い起こせば、私自身、理不尽な思いが気持ち落ち込む度に、何度、松田先生に愚痴を聞いていただいたことでしょうか。その度に適切なご助言や慰めのお言葉をいただいた日々の一こま一こまが、今も胸に浮かびます。

最後の教養部長、初代の地域科学部長という激職を連続してお務めになられた松田先生は、歴史学者として『岐阜県史』を編纂なさるといふ偉業も達成されており、美濃飛騨問わず、県下の自治体や文化施設に何う度、「松田之利先生には、大変お世話になりました。」との大勢の方々の開口一番のご挨拶を、何度受けさせていただいたことでしょうか。

松田先生は、昨年8月1日発行の「森の会ニュース」第13号に、「先生からのメッセージ」として「人物史に魅せられて」の玉稿を寄せていらっしゃいましたね。「いまの社会情勢には恐れることが山ほどありますが、何事も体調を考えながらほどほどに対処しようとしている今日この頃です。」と結ばれていたことを想起し、既にご病状が進んでいらっしゃったことに気づけなかった自分の迂闊さを悔やんでも悔やみきれません。同時に、先生は、「人物を通して社会をみる面白さにはまっています。」とも記していらっしゃり、学問に、人間に、社会に、尽きることない関心と興味を抱き続けていらっしゃった先生から受けた薫陶を、自分なりに次の世代に引き継いでゆけたらと願ってやみません。

松田先生、今は、どうぞ安らかに休んでください。ご冥福を、いつの日も、心よりお祈りしています。



松田之利先生を偲んで

はせがわ のりひこ
長谷川 典彦 名誉教授
(現 岐阜大学特任教授 (教学IR担当))



松田之利先生を偲んで「一言」とのお話を頂き、原稿を書きながら、地域科学部の歴史の最初の一頁に、一緒にできたことが光栄で、また、様々なことが懐かしく思い出されます。松田先生に、初めてお目にかかったのは、20年前の地域科学部の設置のための準備委員会の場でした。学部も違い、専門も私が理系の機械工学、松田先生が文系の歴史学と違うこともあり、接点は、ありませんでした。会議の場まで全く面識もなかったので、委員長であった松田先生が、どこの馬の骨かと思われたような印象を肌で感じたことを今でも覚えています。その時そう感じました、と松田先生にお話しする機会はもうありませんが、そんな話をしながら、お酒でも酌み交わしたかったと、残念に思っています。

当時、松田先生は地域科学部の設置に向けて、学内が動き出し、日本で初めての学部を創るのだからと、委員長として、奮闘されていました。いろいろな場面で、協力をしていくこととなり、お話をする機会も増えました。松田先生のご尽力のおかげで平成8年10月に地域科学部は、設置され、翌4月に、一期生を迎えることができました。松田先生は、初代学部長として、リーダーシップを発揮され、今年、20年目となる地域科学部の礎を築かれました。

一方、松田先生は、昭和55年3月から岐阜県の難病の方々の支援の組織「岐阜県難病団体連絡協議会」の理事長として、会の運営、難病患者の皆さんへの支援と行政との橋渡しなどに御尽力されました。平成10年頃、難病の現状をホームページでPRをしたいと考えられ、松田先生のセミナーの学生がボランティアで作成することになり、当初のページ作成の際に協力したことが思い出されます。時がたち、2年ほど前、久しぶりにご連絡をいただき、岐阜県難病団体連絡協議会のホームページ管理と事務室のパソコンのセキュリティ管理などに、再び、協力することとなり、その後は、月に1、2度、事務室に何う折にお話する機会がありました。持ち前のバイタリティと思いやりの心で14団体4,100名を超える会員の皆さんを支えておられました。昨年末まで何度かお話をしておりましたし、あまりに急なご逝去でしたので、今でも「困ったことが起きたから、難病連まで来てくれ」と言う電話がかかってくるのではないかとさえ、思っています。

この度は、松田之利先生を偲んで の一文を書く機会を与えて頂き光栄に存じます。重ねて、謹んで先生のご冥福をお祈り致します。

合掌

第1期生 ^{なかほら} 中原 さやか

松田先生はいつまでもお元気であるイメージが強く、突然の訃報に今でも信じられない気持ちで一杯です。ひょっこり現れて名前を呼んでくださるのではないかと感じてしまいます。時は確実に流れているのだと改めて思い知らされました。厳しかった研究、先生の熱いお姿が忘れられません。常に好奇心をお持ちになり、精力的に活動されていたことが印象的でした。もっと様々なことを教えていただきたかったと、残念でなりません。ご冥福を心からお祈りし、自分の道をしっかりと歩んでいきたいと思ひます。先生、どうか見守っててください!!

第1期生 マニンコウシン

思い返せば昨日のようですが、岐阜大学を卒業し先生や同級生たちと離ればなれになってもう15年以上たっていました。卒業した時には「あなたは誤解されやすいタイプだから、日本で働く時は何事でもちゃんと説明しなさい。」という言葉が松田先生からいただきました。涙がでるほどうれしかった。私にとって親代わりと言っても過言ではない存在でした。セミナー生たちを色々なところへ連れ出し、たくさんの方を指導していただきました。先生はいつも元気いっぱい、思い出すと今でも目に浮かびます。ご冥福をお祈り致します。

第1期生 ^{まつばら えみ} 松原 恵美

松田さんは私の人生の恩師であり続けている、亡くなられた今でも。先生と呼ばれることに抵抗されていた我が師であるが、「松田先生」と電話越しに何度泣きつきたことだろうか。仕事のこと、プライベートのこと、卒業後もひとかたならずお世話になった。

ふと、恩師の言葉を思い出すことがある。当時は十分に理解できていなかった言葉が、今になればくっきりと心に響く。十年、二十年立てば、その言葉はまた違った意味を持ち、私の人生の道標となると思う。「今度おいしいものを食べに行こうよ」、いつものその約束が果たせないまま、逝去の報を受けた。恩は返せていない。が、精一杯生き抜くことがせめてもの恩返しなのかと自身に言い聞かせている。

第2期生 ^{ひらた じゅんや} 平田 純也

初めに松田先生のご冥福をお祈りいたします。私が地域科学部に入学したきっかけは歴史を学ぶことであり、松田先生との出会いは必然だったと思います。セミナーでは、最初の研究課題として、郷土である美濃市の近世の農村産業を学ぶ機会をいただき、卒論でも同様に美濃市を中心に長良川を媒介とした流通産業を研究しました。これらの研究から郷土愛が醸成され、現在美濃市役所に勤めることに繋がったと思っています。卒業後にお会いする機会はほとんどありませんでしたが、仕事柄、先生がライフワークとして取り組まれていた「岐阜県難病団体連絡会」の会報を目にする機会があり、最近まで写真でのお姿や寄稿を拝見していたので、突然の訃報に大変驚きました。これからは、先生から学んだことを生かすことで、恩返しをしていけたらと思います。

第3期生 ^{あらせ しゅうぞう} 荒瀬 修三

松田先生には、私が卒業した後、特にこの同窓会の関係でお世話になった経緯があります。5年前の総会・懇親会ではミニ講座を、また前回の「森の会ニュース」では記事の執筆をお忙しい中、快く引き受けてくださいました。ご講演や原稿を依頼するために連絡を入れさせていただくと、主セミナーを教養部から教養部へ変更されたことにも関わらず、私の健康や仕事のことをいつも気遣っていただきました。昨年には「コーヒーをごちそうするから」と先生が理事長を務めていらした難病連の事務所で、いつかお会いすることを約束していたのですが、残念ながら実現しませんでした。お伺いできるチャンスはあったはずなのに…。心より、ご冥福をお祈りします。

会員だより



第14期生 やすだ 安田あすか

私は高校で理系、地域科学部1年次は「生物学」系を主に選考していました。ですが、地域科学部の醍醐味でもある、「色々な分野の科目を履修する」ルールで他の科目を履修し、行き着いた先は「観光地理学」。全くの別物です！観光地理学の林ゼミでは、食を使って観光客誘致をしている地域を調べ、卒業論文のテーマには「下呂温泉」のB級グルメによる観光客誘致について聞き取り調査をベースにまとめました。この時、ゼミの子も一緒にきてくれたのですが、ゼミの時間に共有している知識が多いので、「フィルムツーリズムもある」「ゆるキャラが多いね」といった観光地理学的視点で現地をまわることができて、フィールドワークがとても楽しかったです。現在はデザイン会社に勤め、出版社「さかだちボックス」を

主となって運営しています。さかだちボックスでは「まちの面白いことやひとを発信する」という目的で、色々な場所を訪れては、ホームページにまちでの出来事を記事にして掲載しています。まちのイベントの様子や、一見入りづらいけど実は美味しいお店が沢山あること、自分たちの身近にいるすてきな人の話など、まちの魅力について多くの方に知ってもらうことで、「訪れたい」とか「自分のまちって魅力的」という発想に繋がってほしいと思っています。その為には色々な「興味のひっかかり」ができるように、学生時代に学んだ視点を生かしながら、自分の発見を増やし、今後も「知りたい」「関わりたい」と一人でも多く思ってもらえるような発信を頑張っていきます。



さかだちボックス取材中

進路状況

学部進路 2015年度卒業生進路状況（2016年5月1日現在；カッコ内は人数で1名の場合は省略）

<p>公務員(41)</p> <p>検察庁 国土交通省 財務省(3) 総務省 法務省 防衛省自衛隊 岐阜県警察 愛知県警察(4) 岐阜市消防本部 岐阜県(10) 愛知県 岐阜市(3) 江南市 大垣市 浜松市 各務原市(3) 四日市市 一宮市 安城市 蟹江町 坂祝町 愛知県市町村立小中学校事務 愛知中部水道企業団</p>	<p>建設・製造業(11)</p> <p>加藤建設(株) アベイズ(株) (株)アドキットインフォケーション (株)中広 MICS化学(株) 三甲(株) (株)ナベヤ 前田工業(株) 未来工業(株) (有)カワムラ 太平洋工業(株)</p>	<p>運輸・情報・通信業(6)</p> <p>シーシーエヌ(株) (株)NTTデータ東海 (株)システムコーディネイト (株)ホロンシステム 共立コンピューターサービス(株) 富士ソフト(株)</p>	<p>金融・保険業(16)</p> <p>(株)十六銀行 (株)大垣共立銀行(4) (株)中京銀行 岐阜信用金庫(3) 三菱UFJモルガン・スタンレー証券 三菱東京UFJ銀行 瀬戸信用金庫 大和証券 あいおいニッセイ同和損害保険(株) 東京海上日動火災保険(株) 明治安田生命保険相互会社</p>
<p>サービス業(6)</p> <p>(株)名鑑 (有)みろく 本陣平野屋 (株)アルカンシエル 海部地区環境事務組合 (株)Be-Groove(ビーグルーズ)</p>	<p>卸・小売業(10)</p> <p>パナソニックメディコム ネットワークス(株) ヤマニ洋紙工業(株) (株)BAC (株)ヤマダ (株)東陽 初穂商事(株) サンレジャン(株) たんぼ薬局(株) ユニー(株) (株)ニトリ</p>	<p>医療・福祉・教育業(6)</p> <p>医療法人 清風会 大垣病院 医療法人 尾張健友会 千秋病院(2) 独立行政法人 岐阜県総合医療センター 一宮市社会福祉事業団 岐阜県国民健康保険団体連合会</p>	<p>不動産・物品賃貸業(1)</p> <p>住友三井オートサービス</p>
<p>公務員(0)</p>	<p>複合サービス業(1)</p> <p>岐阜県農業協同組合中央会</p>	<p>進学(5)</p> <p>岐阜大学地域科学研究科(5)</p>	<p>進学(5)</p> <p>岐阜大学地域科学研究科(5)</p>
<p>卒業生数 113 就職希望者数 106 就職決定者数 102</p>	<p>進学者数 5 進路未定者数 4 その他 2</p>	<p>就職率 96.23% (就職決定者数÷就職希望者数)</p>	

研究科進路 2015年度修士進路状況（2016年5月1日現在；カッコ内は人数で1名の場合は省略）

<p>公務員(0)</p>	<p>複合サービス業(1)</p> <p>岐阜県農業協同組合中央会</p>	<p>修了生数 16 就職希望者数 6 就職決定者数 2 進学者数 0 進路未定者数 4 その他※1 10</p>	<p>就職率 33.33% (就職決定者数÷就職希望者数)</p>
<p>建設・製造業(1)</p> <p>丸昇技研工業(株)</p>	<p>進学(0)</p>	<p>※1 社会人修了生を含む</p>	

現役学生から

きとうのりこ 佐藤 則子
地域科学研究科 (M2/山崎研究室)



地域科学研究科 院生交流会

こんにちは、修士2年の佐藤と申します。今年度からスタートした「地域科学研究科 院生交流会」の紹介をさせていただけるということで、僭越ながらお邪魔いたしました。

院生交流会はその名の通り、院生同士が知り合い、交流することを目的とした集まりです。起ち上げメンバーは留学生・社会人を含む8名ですが、それぞれが修士1年当時、ゼミや授業以外で他の学生と知り合う機会があまりなく、ちょっともったいないなと感じていたことがきっかけとなりました。会の起ち上げや新入生への告知では、土岐先生や富樫先生、そして学務係の宮島係長に大変お世話になり、感謝の言葉もありません。おかげさまで、4月の第一回交流会では新入生・在校生あわせ20名ほどの参加をいただき、その後も飲み会を企画するほか、メーリングリストに登録して情報交換を行っています（写真は有志で某学会の鶏飼体験に参加したときのものです）。しかしながら修論や就活、仕事で忙しいメンバーのこと、大掛かりな企画はできません。それゆえこの会は、「いろんな背景を持つ人が、それぞれの自発性のもと、ゆるやかなつながりをつくっていける場所」であってほしいなと思っています。通常2年と決めて長くはない修士期間ですが、修了後、同窓会会員となった後も在学中のネットワークを生かすことができれば最高です。こんなゆるい交流会ですが、同窓会のみならずあたたかい応援をいただけましたら幸いです。



平成27年度会計報告

自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
(単位：円、小文字は内訳)

●収入の部		項 目	決 算 額
		会 費 (10,000円×128名)	1,280,000
		懇親会費 (2,000円×24名)	48,000
		受取利息	2,999
		当 期 収 入 合 計	1,330,999
		前 年 度 繰 越 金	683,472
		収 入 合 計	2,014,471
●支出の部		項 目	決 算 額
		事 業 費	580,865
		会報等印刷費	345,330
		会報等郵送費	135,535
		卒業・修了祝会祝金	100,000
		大学フェア賛助金	0
		事 務 費	430,565
		人件費	344,079
		事務用品費	52,704
		通信費	30,412
		その他	3,370
		会 議 費	116,805
		諸会費	1,000
		役員会雑費	31,135
		交通費	84,670
		総 会 費	132,398
		総会経費	0
		懇親会経費	132,398
		予 備 費	0
		当 期 支 出 合 計	1,260,633
		当 期 予 備 費 合 計	0
		支 出 合 計	1,260,633
●資産保管状況		項 目	現 在 高
		現 金	0
		普通預金	
		十六銀行	753,838
		ゆうちょ銀行	503,380
		定期預金	
		十六銀行	8,000,000
		合 計	9,257,218

平成28年度 公開講座のご案内

主催：岐阜大学 企画：地域科学部

岐阜の魅力から「地域再生」を考える

9月24日(土) 13:00~17:00

黒田 隆志 氏 (前岐阜市歴史博物館長)
「社会科教育を中心とする学校教育と歴史博物館との連携がまちおこしに貢献!!」

林 正子 教授 (日本近代文学)
「清流長良川の文学の魅力
— 舟橋聖一『白い魔魚』を読む」

近藤 真 教授 (憲法学)
「憲法から見た岐阜の宝」

25日(日) 13:00 ~17:00

蒲 勇介 氏
(NPO法人ORGAN理事長・長良川おんぱくプロデューサー)
「長良川おんぱく」

稲生 勝 教授 (科学哲学)
「岐阜県の産業遺産」

富樫 幸一 教授 (経済地理学)
「長良川流域から伊勢湾までの循環型地域をめざして」

会 場 / 岐阜大学地域科学部 101 講義室
募集人数 / 100 人
受 講 料 / 無料
申込期限 / 9月9日 (金)

※詳細につきましては、岐阜大学地域科学部 HP をご覧ください。または下記までお問い合わせください。
問い合わせ先 / 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学地域科学部総務係
Tel/ 058-293-3003 Fax/ 058-293-3008
E-mail/ chiiki@gifu-u.ac.jp

平成28年度 森の会役員

会 長 / 浅井 彰子①
副会長 / 浅野 善信① 都築 尚子①
幹事長 / 中山 智隆③
幹 事 / 伊藤 雅浩① 小澤和歌子① 眞鍋 陽子① 笠原 正博⑩
平野 純里⑩ 藤井 敬子⑩ 野村 惇貴⑫ 小塩 里予⑭ 西野 公美⑭
会 計 / 荒瀬 修三③ 伊藤 未有⑯
監 査 / 祖父江利佳① 伊藤 健人③
(氏名の後の○の数字は、期生を表します ①…第1期生)

森の会 会員数 1,971名
(平成28年4月1日現在)

森の会のみなさま、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。

いつも森の会の運営にご協力いただきまして、ありがとうございます。

地域科学部は今年、20周年を迎えます。そして、2001年に1期生の卒業とともに産声をあげた森の会は15歳。学部、同窓会ともに節目の年となります。

そこで、地域科学部20周年の記念行事を後援会と森の会も協力して行います。

10月1日は懐かしい母校に集って、歴代学部長の先生方のお話を拝聴し、旧交を温め、おしゃべりに花を咲かせましょう。

多くのみなさまとごいっしょできるのを心待ちにしております。

素敵な笑顔とともにお越しください。

森の会 会長 あさい あきこ
浅井 彰子

森の会では、みなさまからの近況報告、ご意見・ご感想を募集しております。
メールまたは郵送にて下記宛先までお送りください。

連絡先

森の会(岐阜大学地域科学部同窓会)
〒501-1193
岐阜市柳戸1番1 岐阜大学地域科学部内
TEL:058-293-3021
FAX:058-293-3008
E-mail:mori2001@gifu-u.ac.jp
事務局業務日(月・水・金 9:00~15:00)



森の会アドレスに
簡単にアクセス
できます



地域科学部創設記念式典の様子(平成8年)